

2023年12月16日開催

第21回

多職種連携研修会

開催結果について



(専門職向け)

## \* 概要 \*

- (1) 開催日時 2023年12月16日（土）  
14:00~17:00
- (2) 会場 町田市役所3階 3-1、3-2、3-3会議室
- (3) 参加者 108人
- (4) テーマ  
「ゼロから知ろうACP（人生会議）  
～ACP（人生会議）説明できますか？～」

# \* 研修会内容 \*

## ● 講演

【ゼロから知ろうアドバンス・ケア・プランニング（人生会議）  
～アドバンス・ケア・プランニング（人生会議）  
説明できますか？～】

講師

日野原記念ピースハウス病院

診療部長 医師 羽成 恭子 氏

# \* 研修会内容 \*

## ●グループワーク

【地域住民にアドバンス・ケア・プランニング

（人生会議）を普及するには】

- ・各グループ7人構成、計15グループで実施



# \*当日参加者アンケート集計結果\*

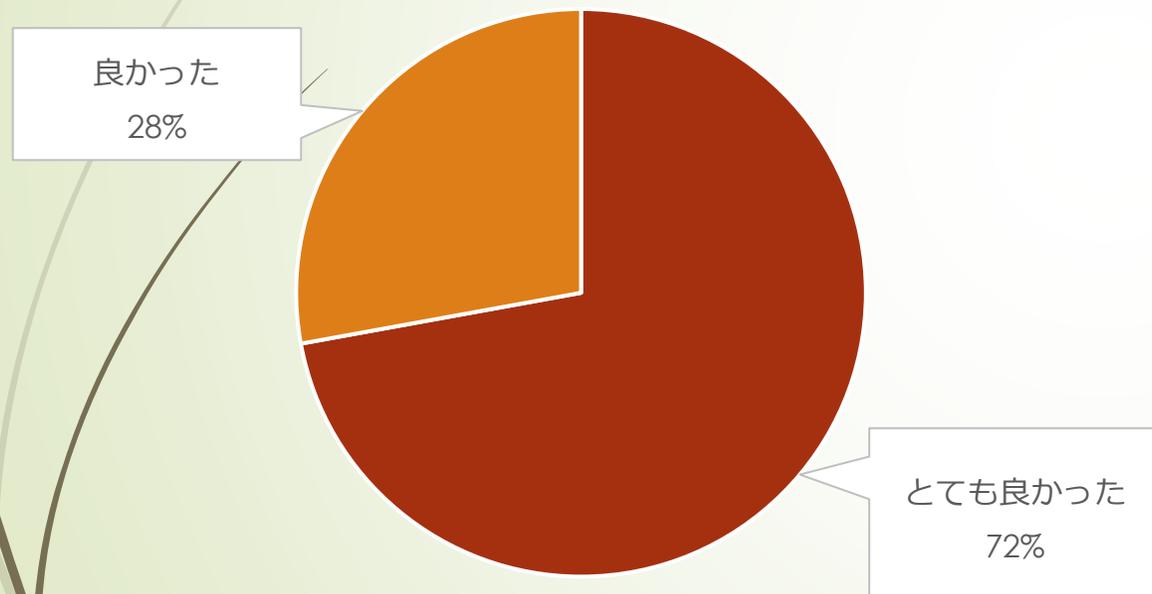
回答61件

# \* 参加者アンケート集計結果 \*

6

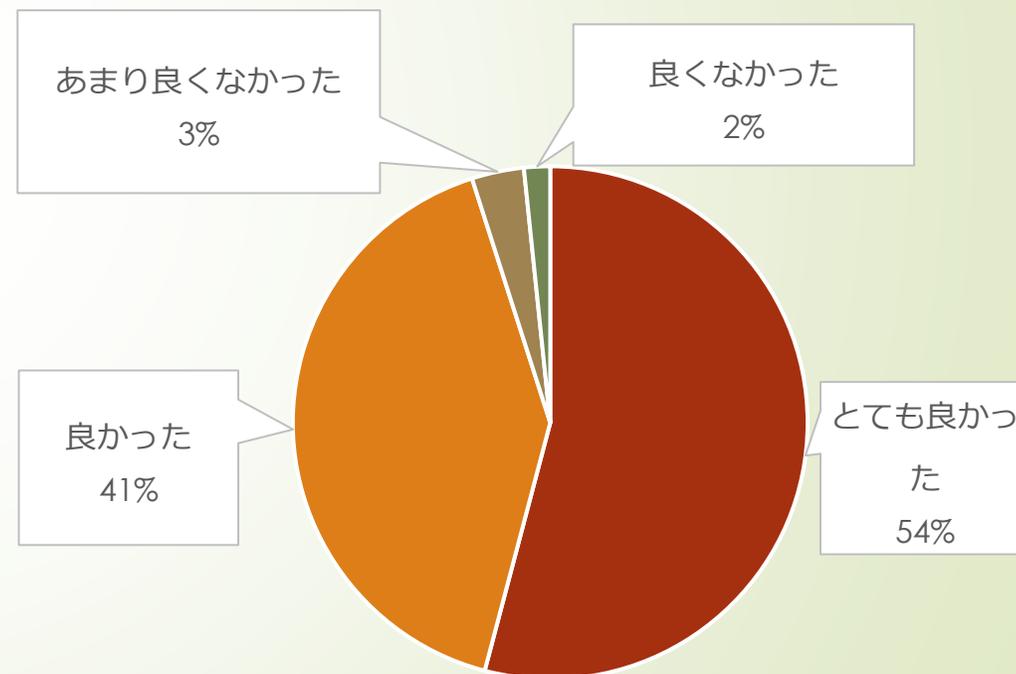
## 各講演の内容

### 【講話】



- ・あまり良くなかった 0%
- ・良くなかった 0%

### 【グループワーク】

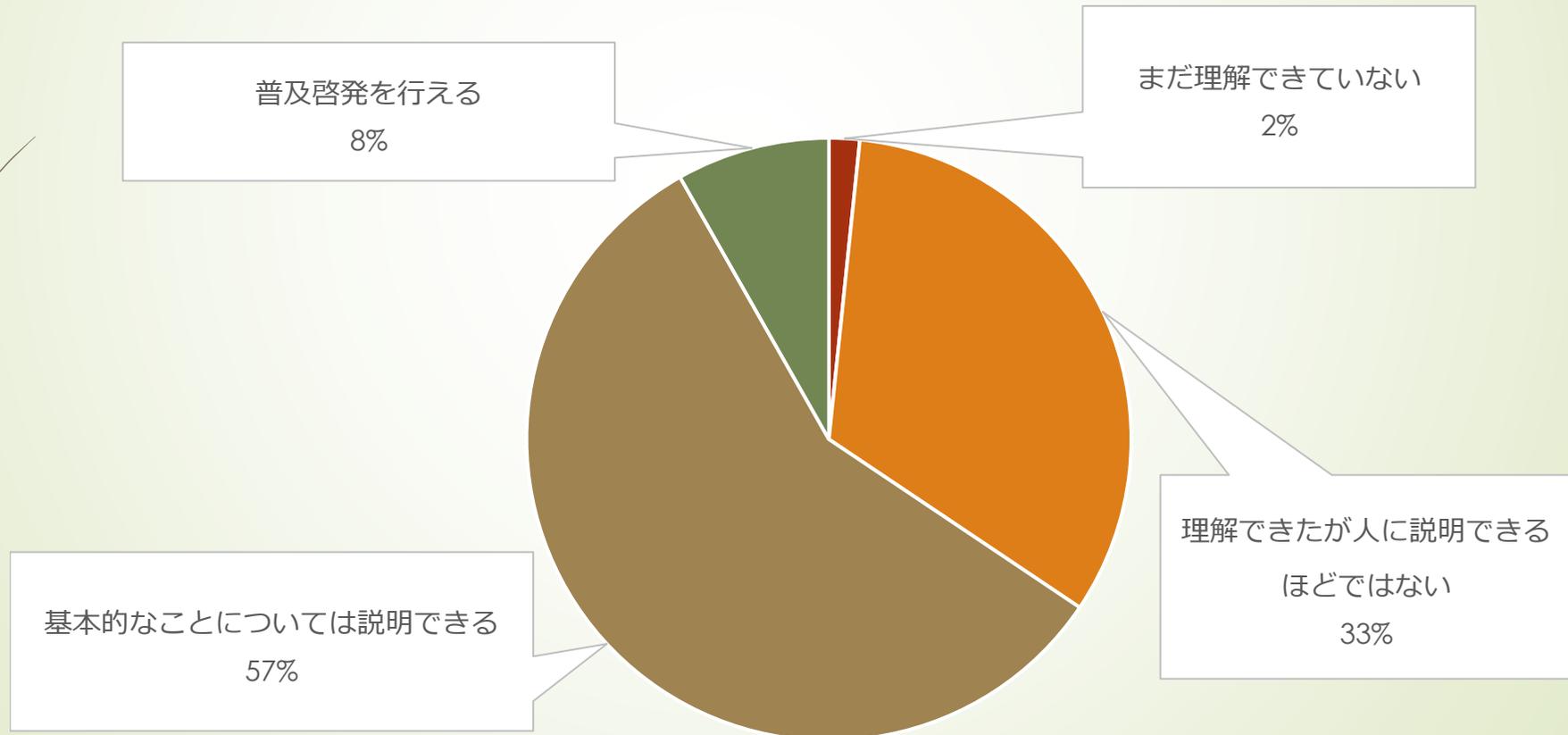


# \* 参加者アンケート集計結果 \*

7

## ACPの理解度

### 【ACPの理解度】



# \* 参加者アンケート集計結果 \*

8

## 講話の感想

- これまでの普段の業務がすでにACPという内容に気づきがありました。
- ACPは延命治療や人生の最期だけを考えるものではなく、この先の人生をどう生きていきたいか？自分は何を大切にしたいか？を支援者や家族と一緒に考えるプロセスである、という根幹の部分を知ることができました。
- 避けたいと考えていたが、希望通りに生きるために必要と考えられるようになった。
- どのように話をもっていけば良いのか、具体例が多く挙げられており、大変説得力があった。

## \* 参加者アンケート集計結果 \*

9

# グループワークの感想

- 相談員、OT、サービス提供責任者、ケアマネジャーといった様々な職種で意見交換できた。専門職だけでなく当事者となる市民への普及、継続的な実施(支援)など課題が多く把握できた。
- 幅広い世代の方にACPを当たり前のことと感じていただけるよう浸透させることがとても大事だと感じることができました。
- 普及しきれていないACPについて、今私たちができることを積み重ねること、そして一般の人に周知するには沢山の人の力が必要であることを改めて考える機会になりました。縁起でもない敬遠されてしまいがちなテーマだからこそ、自分事として捉えていくためにどうやって患者さんや家族に働きかけるか、これからも考え続けていきたいです。
- 最初にファシリテーターが、課題ごとに例題を出してくれれば、細かくいろんな意見が出たと思った。

## \* 参加者アンケート集計結果 \*

10

# 今後実施したいACPの取組

- 所内で研修を開いて理解を深めたい。地域の事業所と一緒に学ぶなど広い範囲で学びの場を作りたい。利用者の価値観に沿うことができるよう、講義の内容を参考に質問の仕方やコミュニケーションの取り方を工夫していきたい。
- まずは利用者や家族を対象に、既存のパンフレットなどを配布しながら説明、普及していきたい。
- 地域の集まりの中で、もしばなゲームなどを取り入れながら、実施してみたい。
- 人生会議の方法 具体的にどのように使っているか。どんな方法で行なっているか知りたい

## \* 参加者アンケート集計結果 \*

11

# 全体の感想

- ACPが人生会議と堅苦しい日本語訳ではなく、もっと馴染みやすいネーミングであると、老若男女、皆関わりやすいのでは、と感じている。
- 福祉、介護、医療と一緒に考えていけるのはとても良い企画でした、これを現場に生かしたいです。
- 終活とACPの違いをどう説明したら良いか？やや疑問に残った。
- グループワークを通して、他職種、多職種の考え方を知る機会を得た。自分はまだまだ視野が狭いと感じたので今後も色々な研修会に参加したい。

# \* まとめ（分析と研修の成果） \*

## 【事前・事後アンケート結果】 事前⇒事後

- ①理解できていない：7%⇒2%      ②理解できたが説明できない：28%⇒33%  
③基本的なことを説明できる：51%⇒57%      ④普及啓発できる：8%⇒8%

【考察】①③より、目標であったACPの基本的理解の基盤を整えることについては十分に達成したといえる。

アンケート回答結果の推移をみると、事前から事後で、「①理解できていない」の割合が5%減り、「②理解できたが説明できない」の割合が5%増えた。研修会を通して、説明まではできなくても、理解はできるようになった人が増えたと考察される。

また、②の割合が増えた要因として、講師の説明がわかりやすくかつ充実したものであったことで、同様の説明ができることを求められているとすればまだまだ達していない、と判断した参加者が複数いたと推察される。

自由意見に好意的な受け止めだけでなく、次の展開やさらなる理解を期待する振り返りが多数あったことから、本研修が参加者の認識向上だけでなく、我々事として行動への意識を醸成した成果と考える。また、専門職の理解度の推移から、今後行っていく市民への普及啓発は、よりわかりやすい手法やツール等を検討し、継続的に実施することが重要であると考えられる。